

エゼキエル書

エゼキエルは祭司で

バビロンが最初にエルサレムに 攻めて来たころ

そこに住んでいました バビロンはエルサレムを滅ぼし

つくしはしませんでした が イスラエル人たちを捕囚として

連れ去り エゼキエルもその一人でした

この書はそれから 5 年後 エゼキエルが捕囚の居住区の近

くにある 水路のほとりに座っている場面

から始まります それは**彼の 30 歳の誕生日**で

本当ならエルサレムで祭司に任命 されるはずの年でした

その時彼は突然幻を見ます雲が 近づいてきて

その中に互いに触れ合う翼をもった

4 つの奇妙な生き物が見えました それらの生き物は 4 つの顔を持ち

そのそばには一つずつ車輪があつて 彼らの翼は輝く台を支えていました

台の上には王座がありそこには 人間の姿に似たものが

輝き炎に包まれているのが見え ました

そして突然エゼキエルは自分が 何を見ているかを悟り

主の栄光の姿のようであったと 言いました

それは神の王座であり荘厳な乗り物 だったので

ヘブル語では栄光のことをカボド と言いますが

その意味は重いつか重要で す 聖書の著者たちはこの言葉を神

が直接現れた時の容貌や 重々しさを表現するときに使って

います それらの描写は出エジプト記にある

神がシナイ山でモーセに現れた 時のものとよく似ています

またこれは契約の箱の上にある 神の臨在の姿とも似ているのです

ここで驚くのはなぜバビロンで 神の栄光が見られるのか

ということですそれはエルサレム 神殿の中の契約の箱の上にこそ

あるべきものなのに この書の最初のセクションは

イスラエルの反抗に対するエゼ キエルの非難を通して

この問いについて考えるところ から始まります

まず神は王座からエゼキエルに 語りかけ  
彼を預言者として任命します  
エゼキエルは神との契約を破った  
イスラエルを いくつかの方法で糾弾する任務  
を与えられました イスラエルは他の神々にも忠誠  
を誓い 偶像礼拝をしその結果国には不正  
と暴力がはびこっていました そこで神は人々へ警告するために  
エゼキエルを預言者として送り 出しました

エゼキエルはバビロンの最初の 攻撃の際に捕囚にされましたが  
やがて2度目の攻撃が加わり そうなればエルサレムとその神殿  
の破滅は時間の問題でした  
そこでエゼキエルは神のメッセージ  
を伝えるため 言葉だけでなく街角のパフォーマー  
がやるように 体を使ったデモンストレーション  
もしました街中に出て行って 非常に奇妙なやり方で預言のメッセージ  
をたとえ話のように伝えたのです たとえばエルサレムの小さな模型  
を作ってからそれを攻撃したり 髪を剃ってそれを剣で打ったり  
もしました また最も極端な例としては贖い  
の日の犠牲の山羊を演じました 1年以上も横向きに寝て糞で焼いた  
ものを食べ エルサレムが包囲されたら人々  
が汚らしいものを 食べなければならなくなるということ  
を示したりもしました しかしエゼキエルにとって一番  
つらいことは 彼が伝えるメッセージに誰も耳  
を貸さないということでした イスラエルはかたくなな反抗心  
のために 彼を拒むだろうと神は言ったの  
です これはモーセが荒野で神に逆ら  
ったイスラエル人に いつか散らされる日が来ると預言  
したことを思い出させます 不幸なことにエゼキエルはそれが  
現実となった事を体験したのです

エゼキエルは落胆しながらも与  
えられた任務を遂行し それから約1年後にまた別の幻を見  
ます それは神殿についてでした

彼は幻の中で神殿を訪れ そこで起こっている嘆かわしい  
事実を見ます 神殿の正面の外庭に大きな偶像  
が建てられ イスラエルの長老たちが  
神殿の外でも中でもそれを礼拝 していたのです  
またイスラエルの女たちは バビロンのタンムズという偶像  
を拜んでおり 神の栄光の王座が神殿を離れ  
東のバビロンに向かっていくところで 幻は終わりました  
こうして神の栄光がなぜバビロン にいる  
エゼキエルに現わされたかが 11 章で明らかになりました

イスラエルの民は露骨に偶像礼拝 をし契約違反をして  
神を追い払いました そこで神は神殿を離れ去りそれを  
破壊すると定められたのです  
しかしそれでも神は民を見捨てる  
ことはなく 捕囚先まで一緒に行ったのです

そして 11 章の幻の最後で神はイスラエル の残りの民を国に帰し  
彼らの石の心を新しい肉の心に 変え  
神を愛して従うことができるように すると約束したのです  
ここにかすかな希望が見えます それは目前に迫る破滅によって  
見失われてしまうのですが 11 章に記されているこの転換点  
は この書の残りの部分を理解する  
のに役立ちます 続く 3 つのセクションはすべて神の  
裁きについて述べています まずはイスラエルに次に近隣諸国  
に そしてエルサレムに対しての裁き  
です しかしそのあと 11 章の希望に満ち  
た結末は 最後の 3 つのセクションにある結論  
へとつながっていきます  
まずはイスラエルの希望次に近隣  
諸国の希望 そして全世界の希望です  
12 章から 24 章はイスラエルに対する 神の裁きに焦点を当てており  
さまざまな詩やエッセイが集め られているのですが  
エゼキエルはここでも比喻やたとえ 話を好んで使っています  
イスラエルを役に立たない木の 燃えさしや反抗的な妻  
あるいは捕らえられて荒れ狂う ライオン  
貞操のない二人の姉妹に例えています これらはみなイスラエルの愚かしい

反逆と 破滅を招く偶像礼拝を表現した  
ものです

このセクションでエゼキエルは  
検事のように 何世紀にもわたる契約違反のあと  
のエルサレム陥落は 当然のことであると主張しています  
たとえノアやダニエルヨブのように 世界でもっとも正しいとされる  
人々が イスラエルを滅ぼさないでください  
と祈ったとしても もう手遅れでその祈りは聞き入れ  
られないだろうと言いました 神の善きご性質は  
イスラエルのこの世代に正義をも たらさざるを得ず  
捕囚は避けがたいことになって いて  
最早引き返せないところまで来て いたからです

エゼキエルは引き続きまずイスラエル の近隣諸国に  
次にそのあたりの地域で最も強い エジプトとツロに焦点を当てます  
イスラエルはこれらの国々と同盟 を結び  
彼らの神々や偶像を受け入れていました

ツロとエジプトの王は傲慢にも 自分たちを神々のように見なし  
善悪の基準を自分で決められる と思っていたので  
神は彼らを咎めその傲慢に報いるため  
バビロンを用いて彼らを滅ぼすと言ったのです  
彼らもまた神の義に直面することとなるのです

この緊迫した場面につき 33 章でエゼキエルはエルサレム  
から逃れてきた者から バビロンの攻撃によってエルサレム  
が陥落し 神殿が破壊されたことを聞かされます  
エゼキエルの恐ろしい警告が現実のものとなったのです  
しかし 11 章の最後では これで終わりとはならないことが  
語られていました 次のビデオでは希望に関するエ  
ゼキエルの複雑で不思議な幻について 学びましょうエゼキエルの前半  
はここまでです

## 500字要約 エゼキエル前半

『エゼキエル書』は、バビロンがエルサレムを攻撃しイスラエル人を捕囚した際に、その中の一人であった祭司エゼキエルの体験を記したものです。彼はバビロンで幻を見、神の栄光を目撃し、預言者としての任命を受けました。神はイスラエルの罪を非難し、エゼキエルを通じて警告を発しました。しかし、民は耳を貸さず、エゼキエルは奇妙な方法で神のメッセージを伝えました。その後、神の栄光は神殿を離れ、バビロンへ向かいました。これはイスラエルの信仰の裏切りによる神殿の破壊を予告したものでした。しかし、神は民を完全に見捨てず、彼らに新たな心を与え、希望を与えると約束しました。エゼキエルはイスラエルや周辺諸国の罪について警告し、バビロンによる裁きを預言します。それでも、最終的に希望が見え隠れし、神の恩寵が示されるのです。